

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◆ 目指す人間像 進取の気性、敬愛の精神、雄健な心身を備え、新たな価値を創造する人。 ◆ Mission 主体的・探究的な学びをとおして、確かな学力と挑戦心を育み、変化の激しい社会を逞しく生き抜く基盤を培う。 ◆ Vision 学習活動や特別活動が高いレベルで充実しており、難関大学進学にも信頼のおける「生徒が育つ学校」となる。	◇ 授業における活動に制約がある中、指導方法を工夫しながら、生徒の学びの保障と健康・安全の確保の両立に向けて、家庭と学校の共通理解のもと、全校体制で取り組んだ。 ◇ 探究活動やグループワークの推進、担任・教科担当等による面談の実施、委員会活動の充実等をとおして、生徒一人ひとりの意欲を高め、活動に主体的に参加する工夫を重ねた。 ◇ 附属中学校全学年に加え、高校1年生が学習用端末を持ったことで、授業でのICT利活用が促進された。より自然なICT利活用に向けて実践研究をさらに進めていく。 ◇ 高校3年生のスパートゼミでは、生徒一人ひとりが目的意識を持って進路実現に向かうよう工夫を行った。今後も主体的・自立的に学習し、挑戦する生徒の育成に向け、取組の進化を図る。 ◇ 文化祭や体育祭等の学校行事を、感染症対策を行いながら実施することができた。今後は生徒主体の学校行事、中・短期の海外留学や国際交流等、生徒の主体性を高める活動を活性化させていく。 ◇ オーストラリアターム留学については、様々な変更を余儀なくされながらも実施することができた。中高一貫教育の研究を進めるとともに、さらに効果的な実施を検討する。 ◇ 限られた時間内に質の高い部活動ができるように計画・指導した。全国大会や近畿大会出場、コンクールでの優秀賞・金賞等の成果を出す部が増加し、生徒の満足度や活動への意欲が高まった。	① 校内に「挑戦する文化」を醸成することで生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、「生徒を育てる」学校から「生徒が育つ」学校へと進化を図る。 ② 生徒への働き掛けや語り掛けによって学びへの意欲を刺激するとともに、生徒が学ぶ授業や探究的な学びの実践をとおして、自らの興味関心や進路希望に合わせて主体的に学ぶ習慣を身につけさせる。 ③ 質の高い授業と難関大学合格に向けたスパートゼミ、自学自習を支える教材の提供・環境の整備等を効果的に組み合わせて、希望進路の実現を図る。 ④ 生徒主体の南陽祭の実施や、コロナ禍で制限されていた部活動・国際交流等の活性化など、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。 ⑤ 中高一貫教育6年間の完成年度を迎えるにあたり、ターム留学を軸とした一貫教育の総括を行い、更なる充実・発展を図る。 ⑥ 互いの人権や多様性を尊重し合い、信頼で結ばれ、ともに成長できる人間関係を育む。 ⑦ 教育目標をより明確化することで業務の精選を図り、ワークライフバランスに係る具体的な取組を継続して進める。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
教務部	生徒に主体的な学びの習慣を身につけさせるために、各教科の授業や探究的な学びのあり方を検討する。	生徒に主体的に学びの姿勢を育成するための効果的な授業について協議し、教員間での情報共有や授業改善に向けて、学期に1回授業見学週間を設定する。
		総合的な探究の時間を通して、生徒が自らの興味関心や進路を考え、主体的・協働的な活動や社会参画の動機付けを実施する。
	中高の連携を強化し、中高6年を見通した教育のあり方を検討する。	中高一貫教育の実践を振り返り、充実した教育活動をさらに発展させるために、中学校会議・中学校教科担当者会議との連携を月に1回行う。
生徒指導部	生徒の主体的な活動を支える。	生徒主体の効率的かつ合理的な部局活動ができるよう顧問をはじめとする関係職員との連携を密にする。
		生徒会や各種実行委員会と連携して生徒が主体的に学校行事を企画・運営する能力を養い、学校行事における生徒の活動を充実させる。
		生徒会活動の活性化を図る。
	中高一貫校としての組織的な生徒指導を実践する。	生徒の状況をきめ細かく観察し、生徒の心的変化を見逃さない体制を構築して全教職員で一貫した指導をおこなう。
		個々に応じた効果的な指導をおこなうと共に、協同的活動を支援する環境を構築する。
		生徒指導事案が発生した際は、関係教職員との連携を迅速におこなうとともに情報共有を円滑におこなう環境を構築する。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
進路指導部	難関大学進学に向けた効果的な進学講習やスパークゼミを開講する。	進学講習の内容を教科・学年と検討・調整し、確かな学力の定着を目指した進学講座を編成・実践する。
		高3生対象のスパークゼミへの取り組みを通して、主体的・自立的に学ぶ力を身につけた集団を育成する。
		各々の学年との連携を密にして効果的な進路学習計画を立案・実施し、出願指導共有会(第3学年)等で担任の個別面談をサポートし、生徒の希望進路を実現するための進路指導の協働体制を強化する。
	「生徒の学びたい」を刺激する。	魅力的な自習室を整備し、自主自学の学習環境・形態を学校としてサポートする。
		Teams等で積極的に進路情報等を発信することにより、生徒が主体的に進路を選択・決定していく姿勢を支える。
		進路委員会を中心として、生徒が進路行事等に積極的に参画する体制を整備し、生徒と共に本校の進路指導を創る。
	各模擬試験データの分析をし、指導に活用する。	学級担任・教科担当者が自らFINEシステムやデジタルサービスを活用して学習指導に活かせるように、教員集団としての情報分析力を高める。
		各模擬試験データを各々の学年と進路指導部の協働体制で分析し、情報を部長会等を通して教員間で共有することにより、見通しをもった指導を行う。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
保健部	「自分の健康は自分で作り、守っていく」という意識を育む。	保健委員会発行「Well-being」を通じて生徒目線のメッセージを発信するとともに、保健室だよりを活用して情報を提供し、感染症や予防対策について生徒に正しく理解させる。
		感染症予防についての対策を状況に応じて継続し、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう教職員間での情報共有を密にする。
	特別な支援を要する生徒に、組織的・継続的に対応する。	学年部・担任・教科担当者等と連絡を密にして生徒情報を共有し、学校適応指導会議とも連携を図りながら個々の生徒の支援にあたる。
		必要に応じて外部の関係機関との連携を行い、生徒の実情の把握、理解に努めるとともに、個々に応じた支援を充実させる。
	「自分たちの学習環境は自分たちで整える」という意識を育む。	清掃用具の整理などの年間を通した美化委員会の活動を通じて、全体の美化意識を向上させる。
		日々の清掃を丁寧に行えるよう、清掃備品の整備を継続し、清掃指導の充実にさらに力を入れる。
図書部	図書委員の活動がより充実したものになるように活動内容を見直す。	図書館に対するニーズを探り、魅力ある図書館づくりをする。また、図書委員会だより「F.I.B」を隔月ごとに発行したり、読書月間に「フィブレット」を作成したりすることにより、読書啓発を行う。
	教科担当との連携を深め、授業での図書館利用と、教科内容に関する書籍の生徒への貸し出しを増加させる。	授業でより有効な図書館利用ができるように、教科との情報交換を密にする。また、教科で作成した作品展示を通して、図書館に足を運ぶ生徒を増やす。
		教科と連携をし、教科内容に関わる書籍を読ませる仕掛けづくりを工夫する。
	読書活動を啓発し、生徒の目を広く社会に向けさせることにつなげる。	新聞や時事問題といった受験時の小論文、英作文に後々関わってくる書籍を読ませるような仕掛けづくりを工夫する。
		「1box」コーナーなどを活用し、多様なテーマの展示を行う。また、読書活動啓発のために、デジタルサイネージ等のICT機器を活用し、図書に関する情報の効果的な発信方法を模索する。
		団体鑑賞などの学校行事に関連した本の展示や校内ビブリオ大会をきっかけに、普段読書をしない生徒にも読書を促す機会を増やす。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
企画研究部	各種課外活動を充実させ、生徒の主体性を育成する	留学フェアや各種説明会など留学・国際交流活動に関する広報を充実させることにより、生徒が主体的に海外交流に参加できる土台を作る。
		コンクールやボランティア活動などの課外活動に加え、オープンキャンパス等学内広報活動において生徒主催企画を積極的に導入するなど、学校内外において生徒が主体的に活動できる場所を提供する。
	情報発信においてICTの利活用を図る	ホームページやSNS等を利活用し、動画などのツールを利用した情報発信を適宜企画・実施する。
		SNS等を利活用した広報活動の効果やプレゼンテーションについての研究・協議を適宜実施する。
事務部	主体的、積極的に学校運営に参画する。	事務の専門性を生かしつつ、効果的な学校運営が行われるよう各部と調整しながら事務を進める。
	校内の安心、安全、美化を推進する。	危険箇所を早期発見するため、月1回点検を実施し、計画的に着手すると共に、柔軟に施設管理の改善をする。
第1学年部	高校生としての自立した生活習慣を確立させる。	挨拶を励行させ、清掃活動の徹底を行う。
		多様な集団の中で、他者との違いを認め他者を思いやる姿勢を身に付けさせる。
		学年団と教科担当者が協力しながら、予習・授業・復習のサイクルを身につけさせる。
	進路実現へ向け幅広い視野を持たせるとともに、挑戦する心を養わせる。	様々な情報発信を行い、幅広い視野と将来の進路への展望を持たせる。
		部活動や国際交流、ボランティアやコンテストへの参加を促し、活動の場を広げさせる。
	情報活用能力やメディアリテラシーを身に付けさせるとともに、デジタルシティズンシップを育む。	主体的にICT機器を活用し、より深い学びへと繋げさせる。
		情報社会で生きていく中で必要な情報モラルやネットマナーの指導を適宜行う。
		ICT機器の利用において、他者への影響を考えさせ自律心を育む。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
第2学年部	高校生としての自立した生活習慣を確立させる。	挨拶を励行させ、清掃活動の徹底を行う。
		多様な集団の中で、他者との違いを認め他者を思いやる姿勢を身に付けさせる。
	高い目標を持ち、目標に向かって主体的に粘り強く学習する姿勢を身につけさせる。	高い進路目標を持たせ、目標に向かって挑戦する姿勢を身に付けさせる。
		主体的に学習する姿勢を身に付けさせる。
	校内行事や校外活動に主体的に参加させ、創造性や人間性の成長を促す。	研修旅行・文化祭・体育祭・学年行事等に主体的に取り組ませ、人間的成長を促す。
		ICTの活用を促し、より創造的な活動ができる素養を身に付けさせる。
第3学年部	「挑戦する文化」を醸成するための学年集団を形成していく。	強い心を育めるように、学年集団に対して支え合うことの重要性を示していくための取り組みを行う。
		学習活動のみならず、高校時代にしかできないことに全力で取り組ませる。
		進路指導を単なる卒業後の行き先としてでなく、生き方の指導としての共通認識を持って指導する
	「自立した学習者の育成」について、生徒・保護者・地域へ発信していく。	生徒のアイデアを活用し、可能な啓発活動を行うことで、各自習室の稼働率を高める。
		現状の学力で判断するのではなく、個々の生徒の目標に向け、より具体的な学習活動のあり方を示す。
		高い目標を達成していくために、学年と各教科に取り組みの「見える化」を求める。
	難関大学合格に向けた取り組みを生徒及び教職員で育む。	授業レベルの向上、集団としての目的意識の高揚を図り、最難関大学の入試に適応しうる学力をつける。
		最後まで諦めずに取り組む姿勢を育み、最難関大学15名以上、難関大学40名以上の受験者を出す。
		教科科目の枠を超えた中長期的学習指導のあり方について具体的方策を提言できるよう研究する。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重 点 目 標	具 体 的 方 策
サイエンス リサーチ科	コロナ禍を経た探究活動の変化分析とさらなる進化に向けた今後の在り方を模索	校外(大学や企業など)との連携を再強化し、主体的な学習意欲の醸成につなげる。
		課題研究を通じた生徒交流を活性化する。具体的には、学年の枠を超えた研究交流の場を設定するとともに、校内での研究発表会の運営等を生徒主体で行わせる。
	ICTの利活用と探究活動の充実化	「探究活動の基礎」、「探究活動ウオーミングアップ」などの取り組みを通じて、探究活動におけるICTの活用方法の基盤を構築する。
		校内外での取り組みをホームページ等で積極的に発信し、本学科の魅力発信に努める。
附属中学校	特色ある中高一貫教育の確立のための実践研究を行う。	自立した学習者の育成を目指し、ICTを活用しながら生徒の主体的な学びにつながる授業研究、授業実践を行う。
	校内や校外の人材との交流を通して、人間的な成長を促す。	学習活動や学校行事に主体的に取り組ませる中で、仲間意識や人格の成長を図る。
		部活動やボランティア活動への参加を促し、各種検定やコンテスト等に挑戦する風土を醸成し、活動領域を広げ人間的な成長を図る。
	より高い目標を掲げ、主体的に学習する姿勢を身に付けさせる。	中高一貫校としての教育実践を踏まえ、生徒が相互に好影響を及ぼしながら、それぞれが「自ら学ぶ」集団を作り、確かな学力を身につけさせる。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重 点 目 標	具 体 的 方 策
国語科	生徒が自ら学ぶ姿勢が持てるよう、段階に応じた指導方法を研究し、改善を図る。	ICT機器やデジタル教材のより効果的な活用方法を研究し、実践する。
		段階に応じた課題の出し方や小テストのあり方を検討し、生徒が主体的に学ぶことができるようにはたらかける。
	質の高い授業やスパートゼミにより、希望進路の実現及び社会生活に対応できる国語力を育成する。	生徒に学習習慣を確立させ、基礎知識・語彙を定着させるとともに、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を向上させる。
		難関大学の入試問題を研究し、生徒の進路実現につなげる。教科内で指導の成果を共有する。
		生徒の知的好奇心を高める授業を展開するとともに、生徒に読書のおもしろさを啓発し、生徒の視野を広げる。
	中高一貫を見通した指導体制の更なる充実・発展を図る。	生徒を多面的に評価するために、評価方法や評価材料を検討・改善し、効果的な指導につなげる。
		教科内外で情報共有を密に行うとともに、中高を問わず、相互に授業見学を行う。
地歴・公民科	主体的・対話的で深い学びにより、確かな学力を育む。	主体的・対話的で深い学びについて、小教科で実践し、教科会議にて共有する。
		新学習指導要領での教科指導について、実施内容・評価方法を教科内で検討し、より効果的な学習につなげる。
	中高一貫を見通した指導を行い、附属中学校から高校への円滑な接続を果たす。	新学習指導要領実施も踏まえつつ、中高一貫教育の6年間の指導方針について検討する。
		附属中学校でこれまで実施してきた指導をふりかえり、指導内容の整理・再検討を行う。
	新学習指導要領を踏まえ、大学入学共通テストなど入試を見据えた授業を行う。	入試の傾向を各科目担当で分析し、指導内容を検討・共有する機会を設ける。
		スパートゼミ、進学講習などを効果的に活用し、生徒の希望進路実現に向けた取り組みを教科内で検討していく。
		ICTを活用した生徒主体の授業の実践を推進し、実践内容を検討・共有する機会を設ける。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
数学科	学力の3要素をすべての生徒に身に付けさせる指導方法を確立する。	個に応じた学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、個々の数学力がより向上するような質の高い授業を展開する。
		希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養い、また適宜発表活動等を取り入れながら、希望進路が実現できる数学力を培う。
		BYODや中学での授業の実践を教科内で共有し、個々の教員がICTをより一層効果的に使えるようにすることで、生徒の学力伸長に繋げる。
	数学を楽しみ、主体的に探究する精神を育成する。	学年や実態に応じて、生徒が興味関心を持って主体的に学び合えるような教材や指導方法を教員間で共有し、実践する。
		数学検定やその他コンテストへの積極的な参加を呼びかけ、数学の魅力・面白さに触れたり、普段とは異なる数学の問題へ挑戦したりする機会を増やす。
		数学の枠を超え、教科横断型授業を展開し、数学の必要性・有用性を生徒に実感させる。
	中高一貫教育および難関大学進学に向けた指導体制の充実及び教科指導力の向上をはかる。	6年間を見通した授業の進度及び指導方法について、適宜教科会議で共有し、進捗状況を確認する。
		スパークゼミ・夏期講習・冬期講習の内容や進捗状況について、教科で共有する場を適宜設定し、難関大学進学に向けた指導方法を確立する。
		「自律した学習者」の育成に向けた授業のあり方、課題設定のあり方について、6年間を見通した段階的指導を考え、実行する。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
数学科	学力の3要素をすべての生徒に身に付けさせる指導方法を確立する。	個に応じた学習指導を行うことで、基礎的な数学力を定着させるとともに、個々の数学力がより向上するような質の高い授業を展開する。
		希望進路に応じた課題設定を行うことで、計算力及び論理的思考力、記述力を養い、また適宜発表活動等を取り入れながら、希望進路が実現できる数学力を培う。
		BYODや中学での授業の実践を教科内で共有し、個々の教員がICTをより一層効果的に使えるようにすることで、生徒の学力伸長に繋げる。
	数学を楽しみ、主体的に探究する精神を育成する。	学年や実態に応じて、生徒が興味関心を持って主体的に学び合えるような教材や指導方法を教員間で共有し、実践する。
		数学検定やその他コンテストへの積極的な参加を呼びかけ、数学の魅力・面白さに触れたり、普段とは異なる数学の問題へ挑戦したりする機会を増やす。
		数学の枠を超え、教科横断型授業を展開し、数学の必要性・有用性を生徒に実感させる。
	中高一貫教育および難関大学進学に向けた指導体制の充実及び教科指導力の向上をはかる。	6年間を見通した授業の進捗及び指導方法について、適宜教科会議で共有し、進捗状況を確認する。
		スパートゼミの進捗状況を、教科で共有する場を適宜設定し、難関大学進学に向けた指導方法を確立する。
		夏期講習や冬期講習の内容に関する議論や振り返りの場を設けることで、より充実した講習ができるようにしていく。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
理科	主体的に学ぶ生徒の育成	ICTを活用した主体的・対話的な授業を行い、思考力・判断力・表現力の育成を行う。
		個に応じた指導を目指し、効果的な授業のあり方、課題のあり方について模索する。
		模擬試験の結果等を通して、生徒の個々の学力や課題を共有するなど学力伸長に向けた組織的な指導方法を工夫して、難関大学進学など自ら高い目標をもって挑戦する心を育てる。
	授業を起点とした探究活動の深化	実験を充実させることにより、理科への興味を深めるとともに、生徒の挑戦心、自主性を育て、探究活動等において外部発表での受賞を目指すことができる生徒を育成する。 中高一貫6年間の教育を総括し、授業や実験の方法を見直し、その成果を他クラスの授業だけでなく、サイエンス・総合的な探究の時間においても活用する。
保健体育科	生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てる。	挑戦する姿勢や主体的に取り組む力を育むとともに、公正・協力・責任・参画に対する意識を高める指導を行う。
		課題の合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通じて、思考力・判断力・表現力を育成する。
		生徒の実情に応じた選択制授業を実施し、運動の楽しさや喜びを深く味わえるようにする。
	現代における健康課題について知識、理解を深める。	現代における健康課題について正しい知識を身につけ、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。 課題学習の研究の質を高め、現代における健康課題をより深く探求する視点を育む。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
芸術科	表現や鑑賞の学習を通して、多様な芸術についての見方・考え方・とらえ方(思考力・判断力・表現力)を学び、芸術を愛好する心情を育てる	中学校との関連をふまえ、表現や鑑賞の基礎・基本的事項をしっかりと把握させる。
		鑑賞や制作・発表を行い、多様な表現活動を通して互いに認め合う力が身につくよう支援する。
	自分の言葉で作品を鑑賞・批評する力を育む	日本の伝統的な芸術と西洋の伝統的な芸術の類似点や相違点を感じさせ、自ら表現することができる力を養う。
		グループ発表・学習をおこない、言語活動の拡充を図り、自らの言葉で諸芸術を批評できる心情を育てる。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育む	教員間で研究授業や互見授業週間、研修会等を通して、教授方法などを研究し、授業改善に努める。
		学習者の知的好奇心を喚起させるような授業が展開できるよう努める。
		多様な芸術について理解を深めさせるため、視聴覚教具を用いて鑑賞教材を研究し、教科指導力の向上に努める。
英語科	基礎学力の定着 自立した学習者の育成	各学年の目標を達成するための学習方法を、具体的に指導する。
		指導要領に即したCAN-DOリストに沿って、4技能5領域(聞くこと・読むこと・話すこと(やりとり・発表)・書くこと)の活動を生徒の実情に合わせて授業に取り入れ、到達度や目標を把握するよう指導する。
		教科書準拠のオンライン教材や教育用アプリについて研究・実践を進める。
	英語でコミュニケーションを図りたいという態度の育成	英語に関する知識を統合し、目的・場面・状況に応じて活用する力を身につけさせる。
		各学年のレベルに応じ、自分の意見を理由や例などを挙げながら英語で書く力を養成するとともに、他者の意見を尊重する風土を醸成する。
		分掌やAETとの連携を密にし、生徒の英語学習への内発的な動機を促すため、生の英語に触れる機会を充実させる。

令和5年度 京都府立南陽高等学校・附属中学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

評価領域 (分掌・教科領域)	重点目標	具体的方策
家庭科	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、主体的・協働的な実践活動・体験活動を通じて、よりよい生活の実現を目指す。	家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践させる。
		生活に根付かせる取り組みとして、家庭との協力による復習の機会や年間を通した継続的な取り組みを生徒発信により充実させる。
		成人年齢の引き下げ、金融経済を意識した授業内容の充実に努める。
	中高一貫教育の円滑な実施と、6年間を見通した指導を行う。 ICTの効果的な利活用を行う。	附属中学校一期生の学習の成果と課題をもとに、高校に繋げる家庭科教育の在り方を研究する。
		ICTの利活用について、効果的な学習指導のための研究を継続し実践を行う。
		研究授業や研修会等を大切にし、授業改善に努める。
情報科	情報について科学的な見方や考え方を養い、活用できる知識や技術を身に修得させる。	情報の科学的理解と、情報の収集、分析、活用、発信等の実習を通して、問題の発見とその解決の方法を習得する。
		実技課題ではPDCAサイクルを意識しつつ、日常生活を題材としたものを設定する。制作後はiPad等を活用した意見交流を通してコミュニケーション能力を養うとともに、総合的な探究の時間や、将来のプレゼン制作につなげることができるICTスキルを育む。
	情報倫理を身につけ、情報社会に積極的かつ公正に参画する態度を育てる。	インターネット、SNS、電子メールやスマートフォンやタブレットなどの利便性と信憑性・危険性を理解、把握させるとともに、Microsoftアカウントを含む校内で利用するユーザID等の気密性の高い情報の管理能力を養う。
		知的財産権に代表される、日常生活における身近な法規を理解し、著作権の保護、肖像権への配慮に努め、情報社会の一員として社会に参画する態度を養う。
	主体的に学ぶ生徒を育成する。	コンピュータ操作の際に苦手意識を持ちがちなタイピング能力を伸ばし、苦手意識を持つ生徒がより前向きに課題に取り組めるように目標設定と評価を行う。
		Pythonを利用してアルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、制作したプログラムコードを共有しながら、それらを評価し改善していく力を育む。